

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月11日(金)

### 《偏見って、それは心の線引き》

おはようございます。

皆様、何回も申し上げて来ましたが、偏見という言葉があります。この言葉の意味を、例えば、子供達に、優しく説明するとすればどのようになさいます。「お母さん、偏見って何、どういうこと？」と質問されたらどの様に説明が出来るでしょうか。色々な表現で説明出来ると思いますが、今日、この福音(マタイ 11・16-19)を読んで私が思い浮かべたのは「偏見と言えば“線引き”じゃないか」という事です。私達は心に色々な線を引ながら生きていると思います。その線は「あの人、あんな言い方するから合わないよ。」「こんな振る舞いを見せるなんて何者なの」「あの人は関西人だし、あの人は関東人だ」もう色々と言がありません。私達は社会的に文化的に、そして、個人的にも線を引ながら生きているのが一般的な姿だと思います。

私にも線があります。居酒屋に出掛けても「これくらいの飲み屋なら大丈夫だけれど、これ以上はちょっとだめだ」という線もあります。線には健康的な線もあれば、引いてはいけない線もあるのではないかと考えてみました。

多分皆様にも、ご自分がこだわっている何かがあるでしょう。この曜日のこの時間には、このテレビを見る事にしている。そういう事ありませんか？あるでしょう。人間は何かにこだわる所がなかったら面白くありません。そのこだわりの対象が趣味やドラマだったり、世の中の何かだったら結構力を入れますが、神様の事となったらどうでしょうか。

神様の事、「あの方の御心は、御旨は何か」知ろうと私達が祈る時間を持つこと、その努力が出来れば、多分綺麗な生き方をすることになると思います。

さあ、皆様、今日の福音を通して、もしかしたら、持ってはいけない“線引き”、やってはいけない“線引き”の中で私達が生きているのではないかと、もう一度考え振り返ってみましょう。そういう好ましくない“線引き”、いわゆる偏見は100%私達に悪いものです。絶対利益にならないものだと思います。

ですから正しい心を持って、「新たに心を注ぐ恵みを下さい。」という祈りが毎日必要じゃないかと思えます。

『笛を吹いたのに踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、悲しんでくれなかった。』これは本当に息苦しい話ですよね。もし、この様な振る舞いを見せているのが私達だったらこれは大変な事です。今日も明日もずっと以前からイエス様は笛を吹いていらっしゃるのです。そして、今は悲しまなければならぬ時だとおっしゃっているかも知れません。私達はそれに相応しい反応を見せるべきではないかと思ってみました。

話は変わりますが、昨日葬式がありました。

長い間教会を休んでいた方でしたが、皆様が心を配って下さったので、教会で葬儀ミサが出来ました。もし、私とその人の関わりの中で誰かが仲立ちをしてくれなかったら、橋渡しをしてくれなかつ

たら、教会での葬式は難しかったと思います。その家族を見て、もどかしい心を感じられて「このような人がいるのですが、どうすればいいでしょうか。」とその様に情報を下さったから、「当たり前私達が受け入れなければなりません。」と言う話が出来た訳です。

「今日、この様に来ました。」と言って導いた方々を見る時、これも宣教であり、私達に必要な正しい姿だと思いました。

教会を離れている人で、来たい気持があっても、手を差し伸べる人がいなくて、勇気が足りなくて、来られない人々が沢山いらっしゃると思います。

誰が休んでいるかは、皆様の方がよくご存知だと思いますので、それぞれ一人一人が少しだけ心を配って下さい。その役割は、私達皆が持っていると思いますので本当に意識して頂きたいのです。

ありがとうございました。